
pokki-の物語

pokki-

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

pokki - の物語

【ISBN】

N2145D

【作者名】

pokki -

【あらすじ】

僕は追い続けるよ、君のため、僕のため。君を追い続ける事が、僕が君にできるたった一つの事だから。

僕は旅立つ 今この時 君に出逢う その時まで

僕は今、ただっ広い、草原の中にいる。見渡す限り草しか見えない。遠くの方に、僕のヅラが小さく見える。

今、僕の頭を隠す物は何もない。昼の暖かい太陽の光を浴びて、目映いばかりに光っている。ヅラがないとやっぱり暑い。でも、暑い理由はこれ一つではない。走って居るからだ。遙か遠くに見える、自分のヅラに向かって。

どれくらい走ったのかわからない。何分なのか、何時間なのか、はたまた何日なのかも。とりあえず走っている。あのヅラがないと僕は生きていけない。

「あのヅラ高かつたのに・・・。」

・・・つい、本音が漏れた。はつきり言って、本当はあのヅラがなくとも、生きていける。特別愛着があった訳でも、ヅラが他にない訳でもない。ただ、高かつたから無くすと悔しいのだ。あのヅラは、百均で買ったカラフルなアフロのヅラと違い、ちゃんとヅラ屋で買った、数少ないヅラなのだ。

そんな事を言って（考えて？）いる暇があるなら、ヅラを追いかける事に集中しようと思い、ヅラを見ると、さつきより遙か遠くにヅラが見える。僕はあわてて、ヅラに少しでも近づくために、全速力で走り出した。

今思うと、僕がヅラを飛ばされた時は、確かに街のど真ん中だった筈だが、現在、僕は草原のど真ん中にいる。どうしてかこれまでの出来事を、思い出して見ようと思つたが、またヅラが僕から離れて行ってしまうかもしれないのに、思い出すのは、ヅラを捕まえてからの楽しみにとつておく事にする。

そんな事を考えていたら、僕の視界からヅラが消えた。

それでも僕は走り続ける。君のため、僕のため。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2145d/>

pokki-の物語

2010年11月11日07時55分発行